

「放射性廃棄物研究」創刊に期待して

(財) エネルギー総合工学研究所・理事長
東京大学名誉教授
山本 寛

放射性廃棄物研究連絡会が放射性廃棄物部会に移行して活動がますます広範にまた活発になっていくことが期待されることは誠に喜ばしいことである。

振り返ってみると、放射性廃棄物研究連絡会の発足総会が開かれたのは昭和59年10月であったから、原子力学会の研究連絡会としては古いほうではないが、会員数は発足当初から学会の研究連絡会の中では一番多く、今回の部会移行時では400名近くおられるのではないかと思われる。

研究連絡会時代から運営委員ならびに幹事各位の熱心な活動と御努力によって、立派な会報が刊行され、また学会の年会・大会や分科会での発表論文も纏めて刊行物として会員諸氏の許に届けられていたが、今回部会として発足を期に更に内容が充実され、「放射性廃棄物研究」の名で論文集が発刊されることになったのを心からうれしく、また期待している。

申すまでもなく放射性廃棄物対策は原子力安全の一環として今後ますます世間の関心が高まるのを避けることはできないし、またこの問題の解決なしに原子力利用の将来の展望を見通すことが出来ない重要な課題であるが、原子力以外の廃棄物処分への国民の見る目がますます厳しくなっており、幸いに下北及び岩手県における処分は現在支障なく行われてはいるが、今後厳しさが一層増すであろうことを考えると、これから進めなくてはならない長半減期の放射性廃棄物の処理・処分についてはその安全性について学問の基盤に立脚した確固たる論拠を国民の前に示さずには問題の前進は望めないと思われる。

この意味から権威ある専門家の集団としての学会がその貴重な研究成果を積極的に発表されることに意義を感じ、今回から刊行されることになった論文集「放射性廃棄物研究」に大きな期待をかける次第である。